

## 2013年度国労仙台地本主催組織対策会議報告



東北自動車支部・丸山さん、郡山駅連・白川さんに檄布を贈呈

1月19日・20日、松島において地本主催による組織拡大対策会議が開催されました。地本としてこれまで組織拡大対策会議を何度か開催してきましたが、一泊での会議は初めて。

この会議には、これまで国労に加入した若者も多く参加しました。主催や挨拶で大沼委員長は「今日の会議は組織拡大について意思統一する場である。全国大会まで一〇〇〇名の拡大を本部から闘争指令が出された。これまで郡山駅連等の報告がされているが、どのようにならたらそのような環境を作れるのか。10月1日に労働条件に関する協約の締結では、毎年会社と交渉する場ができたので、マイナスにならないように活用していく。最後にこの会議を開催した意義を全体で確認することが重要。地本が先頭に立って取り組むのでもにがんばろう」と決意の挨拶がありました。

### 本部・田中副委員長挨拶

不採用事件が解決した。今後は組織拡大を取り組んでいく。これまでは、年間三〇人、四〇人の拡大にとどまっている。現在は二二〇〇〇人の組織。今後は組合員の退職が続く中で、二つのことが問われている。

◆一つめとして、「我々は少数派に甘んじている」、労働者は数力が力である。多数派をめざし拡大に取り組みなければならぬ。

◆次になぜ国労指令を出したのか。一〇〇〇人の拡大を「困難」と見るか「やればできる」と見るのか。今後機関で意思統一しながら困難でもやりきれると確認し、全力で取り組んでほしい。相手を変えるには自らも変わらなないとダメ。一年間を通して、国労に入れることをしっかりやっていくことが重要な取り組みとなる。大会以降で二一人が加入している。共にがんばろう。

◆一つめとして、このままでは自然減少し国労がなくなってしまう。「国労の火を消していいのか」。職場を基礎に労働条件の改善をしていけるのは我々国労である。

◆二つめとして「我々は少数派に甘んじている」、労働者は数力が力である。多数派をめざし拡大に取り組みなければならぬ。

◆次になぜ国労指令を出したのか。一〇〇〇人の拡大を「困難」と見るか「やればできる」と見るのか。今後機関で意思統一しながら困難でもやりきれると確認し、全力で取り組んでほしい。相手を変えるには自らも変わらなないとダメ。一年間を通して、国労に入れることをしっかりやっていくことが重要な取り組みとなる。大会以降で二一人が加入している。共にがんばろう。

### 本部・赤松青年部長挨拶

国労の青年部は現在五〇名。入社式宣伝行動を全ての会社で取り組んだ。平成採用者の学習交流会を五〇人で行った。今後、契約社員の加入を進め、全国の仲間のつながりをつくっていく。

### 東日本本部・彦田青年部長挨拶

東日本青年部は二五人で毎月常任委員会を開催。今年も4月に一八〇〇人が入社するので、全力で組織拡大に取り組む。

※長野地本青年部の二人からも挨拶がありました。

続いて6つの分散会に分かれて、約二時間意見交流を行い、次の日の分散会報告では、

### ◆組織強化なくして拡大なしとして、取り組んできた。国労組合員の背中を若い人に見せていくことが組織拡大にとって重要。

◆若い人が二、三年で職場が変わって対応が難しい。寮の中がほとんど東労組のため、寮に入っ

### ◆新採にパンフレットを渡すことができたが、まだまだ取り組みが弱いので、今後もっと取り組みを強化していく。

この後、東日本本部武田組織部長、地本千葉組織部長からの提起と各支部からの決意表明が行われました。

### 仙台地本内で加入した二人に檄布を手渡す。

この会議の中で、白川さんと丸山さんへ仙総支部で取り組んだ檄布を本人に渡すことができました。

### ◆白川さん挨拶

以前は会津若松にある会社で6ヶ月の契約社員だった。その

後3ヶ月になり、1ヶ月毎の契約となった。JRに入社してから東労組に入ったが、組合としておかしいと思いはじめた。自分分はJRの会社に就職したのであって東労組に就職わけではない。思えばストリートに国労に入れば良かった。

見習い期間、東労組のチャレンジャーサポーターに長くお世話になり影響が大きい。これからよろしくお願ひします。

### ◆丸山さん挨拶

この会社は東労組しかないので半年たったら加入するようになる。以前東京にいたとき秋田の国労の人にお世話になったことがあるので、国労があることは知っていた。今の職場（七北田営業所）では、国労は自分一人だけである。二人になると掲示板も獲得できるので、組織拡大のためがんばる。

と二人からの決意の挨拶があり、全体の大きな拍手で会議は終了しました。

二日間の感想として、長野からも新しく加入した若い人を含め多くの青年労働者の参加により、夜の交流会ではカラオケもあり大変盛り上がりました。

各分会・支部でも、これまでにない取り組みをしていることが改めて知りました。仙総支部でも組織拡大の取り組みを全組合員で取り組んでいかなければなりません。

共にがんばりましょう。